

今後の人口に関する推計（2010～2060年）

資料5

○国から提供された分析ツールを活用し、以下のパターンによる2060年までの本県の人口を推計。

- ① 社人研推計に準拠……主に2005～2010年の人口の動向を勘案して推計。なお、人口の移動率は、今後、全域的に縮小すると仮定。
- ② シミュレーション1…国の長期ビジョンにおける推計方法に準拠して推計（①において、合計特殊出生率が2020年に1.6、2030年に1.8、2040年に人口置換水準(2.07)まで上昇すると仮定）。※ 現在、国の仮定値を上回っている市町に関しては、現在の状況で推移すると仮定。
- ③ シミュレーション2…②において、人口の社会増減がゼロで推移すると仮定して推計

○いずれの推計でも人口の減少は避けられず、特に南予地方は他の地方よりも減少の幅が大きい見込み。

○国の見通しが実現できた場合、①と比べ、県全体で14.9万人、さらに社会減をゼロに出来れば24.5万人減少を食い止めることが可能。

